

## 令和6年度 紫波町学校運営協議会推進シンポジウム



紫波町学校運営協議会推進シンポジウムが、令和7年1月25日(土)参加者52名（各学校運営協議会委員、町議会議員、保護者、一般参加）で開催されました。

開会行事では、佐美淳教育長から「学校運営協議会制度は、令和3年度に紫波西学園で、令和4年度には町内すべての学校で導入された。今日のシンポジウムでは、様々なご意見をお伺いしながら、学校運営協議会を盤石にしていきたい。」というあいさつがあり、その後、町の行政説明、町内6学校協議会に分かれての情報提供と意見交換が行われました。

### 情報提供と意見交換

### 6学校運営協議会に分かれて

町内6学校運営協議会に分かれ、情報提供と参加者からの意見交換が行われました。この内容は、年度末に行われる第4回学校運営協議会において、次年度の取り組みに生かされる予定です。



### 総括

田野畑村教育長 藤岡 宏章 氏



藤岡さんからは、紫波町の取組についての感想とコミュニティ・スクール（以下CS）についての情報提供をしていただきました。

#### 紫波町のコミュニティ・スクールの取組について

- ・先ほどの情報交流と意見交換の機会があることで、各学校運営協議会の交流について比較し思考することができ、考えやすい。
- ・紫波町がうまくいっているのは、これを導入する目的が明確にされた運営マニュアルがあり共通理解されているからだ。「熟議を経て協議へ、協働へ」というベクトル合わせができていて、学校運営協議会と地域学校協働活動が車の両輪のよう

うに回っている。紫波町はCSコーディネーターがいて、チームとして組織的に動いている。中学校区ごとに違いがあり、それぞれのオリジナリティーを大切にすることがポイントだ。「うちだからこそできるもの」を大切にしてほしい。そうすると、子どもたちに地域への愛着心・誇りが生まれる。

・日詰小学校の文部科学大臣賞おめでとうございます。素晴らしい取り組みの背景には、全国学力・学習状況調査で課題とされた「地域や社会をよくするために何かしてみたいことがあるか」「自分によい所があると思うか」について、学校と地域、学校運営協議会が一緒になって教育課程を見直した課題解決型のカリキュラムマネジメントだ。子ども・学校教育の将来像を見据えた議論ができています。

裏面に続きます

- ・子どもにとってリアリティーある学び、本物体験はかけがえのないものだ。
- ・子どもの社会参画は形だけのものになっていないか。お手伝いではダメで、企画運営から参加したり子どもの意見をちゃんと聞いたりすることが大切だ。

## 学校と地域の壁を取り除く学校運営協議会のしくみを有効に使う



- ・小中一貫とCSの先進地は京都市で、学校公開研究会では、はじめに学校運営協議会長があいさつをし、次に学校の校長や先生が発表する。横浜市では、学校の中に公民館があり、子ども達と大人が様々な交流をしている。金沢市の全国コミュニティ・スクール研究大会では、地域学校協働活動を行って、「地域への理解・関心が高まった」、「地域の活性化につながった」との発表があった。入学説明会を、学校ではなく地域学校協働活動推進員が説明している学校がある。
- ・「学校、家庭、地域が足りないところを批判しあうのではなく、足し合い、高め合う！」共に汗する「共汗」の姿勢で取り組みたい。

## 子どもの「不思議な力」と地域のために何かする気持ちの醸成

- ・東京大学の牧野篤先生（社会教育の第一人者）は「コンパッション Compassion」が大切だと強調した。コンパッションは共感の意味だが、語源は「悲しみ」、人の悲しみを自分ごとにとできるという意味だ。CS、地域活動の在り方にコンパッションが生かされているか。
- ・前京都市長の門川氏は、「優秀」は優れて秀でた人ではなく、優しさに秀でた人ではないかと言った。そのような大人になってほしい。
- ・CSを進めていくと、子どもの探究心は伸びる。その基盤は、Sense of wonder（不思議な感覚）。子どもたちは、誰もが「不思議な力」「びっくりする力」を持っている。みんなからちゃんと認められているという感覚を持つことで、Sense of wonder が出てくる。学校で探究活動を通して主体的対話的な深い学びをしましょうとなっているが、この素地を育てているか。東大の調査によると、40才位に地域で次の世代を育成したくなる傾向が強くなる研究結果が出ている。今、子どもたちに一生懸命に関わっていると、紫波町を担う世代になった時、「地域のために何かしてみたい」という気持ちが出てくる。いい種まきになる。大人からの関係性を学校教育の中で考えることが、持続可能な社会をつくっていく。

## 形骸化しないCSのために

以前、全国会議で、CSについて、「形骸化しないためにどうすればいいか」を熟議した。

そこでの意見として

- ① CSについての理解が必要
- ② 学校運営協議会における共同経営者意識の醸成（運営委員一人一人に）
- ③ ローカルな形での運営—自分の町にあったCSかどうか。

子どもの参画もキーワードだ。地域の方にわかってもらう情報発信が重要で、何よりも自走できるかどうか、パワー、考え方を持っているかが大切だと話題になった。



これまで発行した「CS 通信」を含め、右のQRコードより「CS 通信」をご覧くださいことができます。データのダウンロードもできます。

